

理事長退任の挨拶

「4年間本当にありがとうございました。」

前理事長 西片 多門



平成29年6月に就任して、2期4年お付き合いいただきましたことに感謝申し上げます。本来であれば県内全ての地域に寄せていただき、忌憚のないご意見を伺うつもりでしたが柏崎・新発田・村上の3地域は残念ですが

伺うことができませんでした。代わりに三村新理事長には、しっかりとバトンタッチしましたので3地域の地域長は新執行部に出席を要請して地域の実情を相談していただければと思っております。

思い返すと片山顧問(当時の理事長)から食事に誘われ、出向いたのが激動の4年間の始まりでした。今になって呼び出しを受けた日が何日であったか、調べても予定帳に記載のないほどに小さな出来事だったはずですが、部屋に入ると田中・田村・五十嵐各顧問同席のもと次期理事長を受けるように論され、出された食事でも温かかったか冷たかったか、硬かったか軟らかかったか、美味しかったか、とても美味しかったかまるで思い出せず、4人の口車に乗せられ、まさか平成・令和足掛け4年もの長きにわたりお引き受けすることになるとは、魔が差したとしか思えません。

平成29年には全国統一討論会の新潟会場に県下の銘酒を提供し、高評価をいただきました。当時の高野県連会長の「ぐい飲みを用意するように」との指示にも協力させていただきました。

「就任中は予算に不足の無いようにしておいたから」という片山顧問の言葉を信じ、平成30年度から令和元年度にかけて、地域経費の均等割りを10万円増額し、支給時期も今まで半期ごとの支払いを期末に行っていたものを期初に送金して地域での資金繰りを改善致しました。

令和2年度には研修会を開催できなかったことを考慮して、希望書籍の税協負担額を2万円に増額しました。

思いのほか2万円の金額は好評だったようで新年度の予定を聞かれますがこればかりは新執行部

の仕事ですのでご理解いただきたいと思います。会員の増強と本会からの研修時間に対する要望を受け県税協主催の研修会費の割引を実施した結果、研修事業は赤字の予算を建てるのが常態化することになりました。

リモートでの会議に必要な会館の備品を揃え、多様化する会議形態に対応できるように環境改善を進めました。

コピー機の入替え、昨年暮れの会館の大規模修繕と必要な事業を行うことができたのも組合員・賛助会員の税協に対してのご理解があればこそ、思いつく事業は全てやり終えて新理事長にバトンタッチできましたこと改めて御礼申し上げます。

毎月一度は開かれる関税協の大宮での常務理事会は負担では有りましたが可能な限り出席し、借りてきた猫のようにおとなしく、聞く側に廻り情報の収集に努めました。

新潟県税協は全税共事業の収入が他県と比べると物足りないことは知っていましたが、他県の理事長に相談すると生保との関係を密にするようにアドバイスを受け今までの地域業推に頼るのではなく、県税協自身が積極的に個別の生命保険会社と業務推進会議を行うように指示いたしました。

県連を初めとする他の団体との連携も良好であったと思っております。

昨年は新型コロナウイルスの影響で計画していた事業の多くを諦めざるを得ない状況下でしたが5月にはマスクを配付、年度末の3月にもマスクと消毒液を配付いたしました。

また、県連の財政の確立の一助になればと県連未使用の共催事業の予算については寄付金処理を行いました。

これからの県税協の歩みの中で私の、そして執行部の4年間がどのように評価いただけるか、小さな変化ですが今までと違った活動をさせていただいたつもりです。

最後に組合員・賛助会員そして提携企業の皆様加えて事務局職員に感謝申し上げ、新潟県税協のますますの発展をお祈りして筆をおくことにします。

本当に、ありがとうございました。